～外国人の人権～

～イスラム教徒～

# 「大分県は住み心地がよい。家族に対する支援があればもっとよいと思います。」

Ｂさんは、シリア出身の 25 歳。２０１７年に難民として日本にやってきて、現在はシリア再建のために、立命館アジア太平洋大学で経営学を学んでいます。大分県は住み心地がよいと話します。

しかし、私たち日本人は、イスラム教は危険な宗教といったイメージや、難民が日本に来ると治安が悪くなるといった先入観があります。インタビューでは、イスラム教について正しく知るためには、モスクへの訪問や料理を通じた交流なども有効ではないかと語ります。

**○ご自身について教えてください。**

２０１７年８月にシリアから難民として日本に来て、経営学を学ぶためにＡＰＵに在学しています。シリアの再建のために日本で学ぶ機会を得ているので、シリアに平和が戻ったら、シリアに帰り、国を再建するために働きます。

結婚をしており、妻も一緒に別府に住んでいます。別府に住んで約１年です。

シリアも今は全土が危険なわけでありません。２０１６年に観光客が行くような所に行きましたが、素敵なレストランで食事ができ、いい思い出を作ることができました。

**○イスラム教はどんな宗教ですか。私たちが正確に知るにはどのような方法がありますか。**

イスラム教について、日本人には、危険な宗教のイメージがあり、そのことについてよく聞かれる事があります。イスラム教は決して危険な宗教ではありません。「平和と人の融和」を基本とした宗教です。コーランは、周囲の人にやさしく、笑顔を絶やさぬようにとの教えが基本です。コーランを読む前には、自らの罪を洗い流すために、体を洗って清めます。

イスラム教についてもっと知るには、イスラム教についての本を読んでもらう以外に、別府市にあるモスクに来てもらう方法もあります。月に２回イスラムの食事を出し、食事の間にイスラムについての話を聞いてもらいます。毎回イスラムに興味のある多くの日本人が出席しています。

イスラム教徒は、豚は食べません。また、牛や鶏、山羊などを食用のために殺すときには、イスラムの神であるアラーに祈りを捧げて殺します。祈りを捧げることで、イスラム法上で食べることが許されている食材や料理を「ハラール」と言います。動物には感情や気持ちがあり、神の名を唱えながら殺し、苦しませずに慈悲をかけるべきという発想からきています。この発想は、牛や鶏、山羊に適用されますが、魚といった生物には適用され

ません。

イスラムの女性が髪や肌を隠すのは、異性を誘惑しないといった理由からです。女性の服装等については、イスラム諸国や、人々の間でも考え方に差異があり、私は信心深い方ですが、あまり極端な発想は好きではありません。

**○大分県で暮らしていて、何か不便を感じることはありますか。**

別府市に来て、さほど嫌な気持ちになったことはありません。ラマダン（宗教上の断食）の時も周囲の日本人は理解を示してくれます。街に出たとき、私をじろじろ見る視線を感じることがあるくらいです。もっと気軽にお話しができるといいなと思いますが、別府市はＡＰＵがあるせいか、本当に外国人に対する理解や対応の仕方が進んでいると思います。

**○必要な支援は何でしょうか。**

私は大学に通っており、モスクにも通っているので、たくさんの友人や知り合いがいるのですが、私の妻は、英語もさほど話すことができず、モスクにもなかなかいけなく、日本語もできないため、孤立しています。「外に出て人と話してみては？」と言ってますが、言葉の壁からか、なかなか出ることができません。家族への日本語などの語学に関する支援があるとよいと思います。日本人もシリア人も食べることが大好きだから、お互いの料理を通じた交流なども有効だと思います。

それと、ハラールの肉がもっと手に入るようになるとよいと思います。今は鶏や牛に限られていますが、山羊やマトンなども欲しいです。それと、私たちは一日に５回お祈りをします。お祈りの時間は季節や日によって異なり、今はアプリでその時間を知ることができます。きれいな床とマットさえあれば、メッカの方向に向いて祈ることができるので、商店街等の中に、小さな祈りのための部屋があるとよいと思います。